

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100105		
法人名	社会福祉法人 愛鍼福祉会		
事業所名	シルヴァーリージャ		
所在地	宮崎市大字加江田4540-3		
自己評価作成日	平成29年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より地域と共に歩んでいくことを意識して取り組んできた。地域と共催で行う夏祭りなどは今年で10年目となった。また、自治会の住民として各種行事会議への参加や、法人と協力しての地域貢献活動も行うなど地域との共存に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体で、地域貢献のため「元気隊」が結成され地域との交流を大切にしている。シルヴァーリージャの事業所も、地域のサロンへの参加や遠方ドライブ、事業所の敷地内での夏祭りや地域の方々が作った農産物を持ち込んでの朝市を通して、利用者と地域住民が交流する機会を作っている。ケアでは、利用者ごとに担当者が配置されており、毎月のミーティングで、表現が難しくなった方に対しても、この利用者に喜んでもらえたらという思いで常に考え、個別支援に努めている。利用者によっては本格的な野菜作りを職員と共に取り組み、収穫を楽しんでいる。このように、一人ひとりのしたい事や出来る事を増やせるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合い作成した理念を掲示し、その理念を共有し実践を心がけている	理念は、職員が目にとまる箇所に貼り、意識付けしている。職員一人ひとりが、理念に基づいたケアを行っているかを再認識し、取り組めるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来地域と共催の夏祭りを行い、月1回のサロンへも参加し、敬老会クリスマス会など数多くの交流機会を続けている サロンに関しては一部の入居者の参加しかできていないので、課題の一つとなっている	職員は、常に地域との交流は図れているかを考えている。地域のサロンへの参加や事業所の駐車場を使つての朝市や夏祭り、住民との遠方へのバスハイクなど地域住民と交流が途切れないうり組みしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンの参加や日頃の交流を通じ、認知症の人とのかかわりの中から理解をもらっているが、勉強会のような理解促進の場を作れていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の実施を行い、議事内容の報告などは全職員へ周知しているが、職員が参加し直接話し合いの場に加わることができていない	地区社協や民生委員、利用者家族等が参加している。職員は一人ずつ参加し、会議であった内容は、報告書を作成し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主に連絡をとっており、職員全員という形での関わりはない。書類提出などはこまめに窓口へ行くようにしている。また、市の主催する研修への協力など積極的に行っている。	管理者は、事業所で抱えている問題などを市役所に足を運び相談している。認知症サポーター養成講座や研修などの依頼にも積極的に参加し協力体制を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間深夜帯を除き施錠は行っていない。身体拘束については社内研修などを通じて学ぶ機会を設けているが、今年度は実施できていない	職員全員で取り組んでいくケアの内容が、職員が記録や作業する場所に掲示され、意識付けできるよう工夫されている。言葉かけや立ち振る舞い、ケアの内容で気になる場面があれば、その都度職員と話し合う機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学びの場を設けているが、今年度はまだ未実施。事業所内のミーティング等で啓発の勉強会を開きたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用し保佐が開始されている入居者もいるが、全員の理解までは至っていない。社内研修で司法書士からの勉強会が実施されたが、業務の都合で一人の参加にとどまっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。十分な説明を心がけているが理解などの確認は十分できていない。また、全職員が契約書、重要事項説明書を見て内容の理解をすることができるようにしていきたい		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や支払いの際に意見をいただき、反映させている。また家族の代表に運営推進会議へ参加してもらい、意見を上げてもらっている。しかし、一部の家族からは十分に納得してもらえてはいないと思われる	家族会を今年の10月に解散している。家族会としての意見は、その後、得られにくいのが、個々の家族からは、面会時や電話などで意見がもらえる様働きかけている。今後は、家族会とは違う形で、家族の方が意見や要望が出し易くなる働きかけを検討している。	長年続いていた家族会が終了したことは残念ではあるが、今後、家族と共に利用者の生活を支えるために何がお互い出来るかを検討する機会が増えることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務内、月1回のミーティングを通じて意見や提案は管理者へ伝わっていることが多い、法人としての回答を必要とするもの以外は、比較的反映は出来ていると思う。法人に対しては管理者を通じ、経営会議等で伝えている	毎月のミーティングで、職員からの意見や要望は、受け入れ、職員が実践しやすいように、管理者は常に相談に応じ対応している。代表者にも、朝礼や経営会議で職員の要望や意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件などの環境についてはある程度整備されている。個々の努力や実績が給与に反映するシステムまでには至っていないかもしれない。年1回代表者との面談が実施されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修への派遣も計画的に行っているが、社外の研修についてはまだまだ不十分な点がある。また、復命書の提出によりまなびの効果を高めるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者団体の研修会参加や社外の研修機会において同業者の交流を勧めているが、まだまだ不十分		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の段階での情報には差があり不十分な点があることも事実である。基本は本人と話をしながら、その気持ちの理解に努め、安心できる暮らし方を考え提供できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申し込みの段階においては主に管理者や計画作成担当者が関わり相談、ねぎらい等必要な支援を行わせていただいている。入居後も居室担当者などを中心に要望等、話しやすい関係作りを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の前には十分な話し合いを行い、居住系のサービスの必要性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食事作り片付け入居者ができる事をしてもらいながら、しようとしている事の手伝いを行うような関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診、帰宅など出来る部分は手伝ってもらいながら支援を行っている。また、面会の際の近況報告、毎月の便りにひと月の様子を撮影した写真や担当職員からのメッセージなどを送っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への訪問などは十分に行えていない。いくことはできないが、会話の中で馴染みの場所の話など忘れることのないようには話題として提供するように心がけている 知人の面会時などはゆっくりと話が出来るように場の配慮などしている	外出が難しくなっている利用者には、朝市や夏祭りを通じて交流が図れる様に取り組んでいる。外出が出来る方には、地区のサロンへの参加や教会、美容室、野菜作りのための店などに行き、利用者ごとに関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性やその時の状況などに合わせて、職員が仲介役などになり、良好な関係性作りに配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人がなくなったの契約終了が多い為、本人に対してのフォローは機会が少ない。ご家族とは近隣に住んでいる方などは、地域で会う機会もあり必要な支援や経過報告は職員間で共有している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話の中などからも望む暮らし方などの意向をくみ取るようにしている。困難な場合の本人本位が出来ているかどうかは不十分かもしれない	会話や表情などを読み取り、記録し、その方を分かろうとする努力は惜しまないよう取り組んでいる。断片的に発した言葉も大切に、表現が難しくなった方に対しても、この利用者に喜んでもらえたらという意識で常に考えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や暮らし方などは事前の情報として把握するようにしており、日々の暮らしの中での言動からの気付きも加えて考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の過ごし方、心身の状態の把握は個人記録や健康状態のチェック表へ記入し、一人ひとりの現状をつかむようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、担当者もモニタリングを実施、家族にも意見を求めながら介護計画を作成している	毎月のミーティングで、利用者ごとにモニタリングをし、その都度、改善に繋がるための案を出し合っている。生活の中で個々の利用者の良い場면을記録し、そのような場面が多くなるような工夫を計画の中に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録はもちろん、申し送りノートの活用、朝夕の申し送り等によって情報共有を行い介護計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や友人との外出や本人の希望する買い物など、実現可能になるように職員の配置な柔軟に対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分には出来ていないと思う。一部の入居者は教会への礼拝を牧師や友人の方と出かけたり、もともと通っていた美容室を利用し帰りは送ってもらうなどしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診している。家族が同行の場合には日頃の様子など伝えた上で受診してもらっている。気になる様子については日頃から、契約している訪問看護と相談し主治医への連絡などを行っている	利用者の状況に応じ、家族や職員が対応し、かかりつけ医の受診を行っている。定期的に訪問する訪問看護との連携も大切に、主治医との連携を密にしている。歯科の往診も利用者の状況に応じ行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、定期不定理の相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はなるべく職員が面会に行くなど、本人との関係性の維持や情報の把握に努めるようにしている。必要に応じて計画作成担当者、管理者はカンファレンスへの参加などを行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも事業所の考え方、出来る対応などを説明し終末期の希望を聞いている。希望についてはいつでも変更が可能であることも忘れずにつてている。これまでも、主治医、家族、訪問看護、事業所でのチームを作り終末期の取組は行ってきた	事業所の、重度化や終末期のケアの方針は、その都度、利用者の状態に応じ説明をしている。必要な場合は、医師を交えた話し合いも行っている。訪問看護ステーションの職員とも連携を図り、情報を共有している。訪問看護が訪問した記録など家族にも提示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場外での研修参加などで知識技術の修得に努めている。しかし、訓練としては十分に行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練が実施できていない 今年度は2度台風での避難は実施している	今年は、台風での実際の避難が3回あり、その経験を生かし、職員間で反省や今後に生かせる工夫など話し合いがなされている。台風以外の災害の訓練を12月に地域と共に実施する予定になっているが、地区の消防団との連携が図られていない。	火災などの訓練を定期的に行われ、運営推進会議を利用して、地域住民や消防団と協力支援体制が図れる様取り組んでほしい。また、地震による津波の発生時の避難などにも取り組み、地域と何が出来るか話し合う機会を作ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の話をよく聞き、否定する言葉を使わないようにしている。一人ひとりに合った丁寧で分かりやすい言葉かけや対応をしているが十分ではない	年に1回、尊厳やプライバシーの保護の研修を行っている。利用者から今何を求められているのかを常に考え、その場に応じた対応が出来る様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的な事としては入浴や食事、寝る時間など好みの時間に合わせるようにしている。その他の事も一つ一つ本人に聞き自己決定をしていただいている。困難な場合でも選択肢を用意するなどの心がけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にそって一人ひとりのペースに合わせて過ごしてもらっているが、毎日出来ておらず、職員の都合に入居者の方を合わせさせてしまっていることがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は自分で選べるようにしている。髭剃りや髪をとかすなど本人が出来るところは時間がかかっても出来るように支援している。 外に出かける際も出かけることを伝えた上で、服を選んだりしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなど本人の好みに合わせた食事の提供を行なっている。また、準備や片付けなども一緒にされる方もいる。ご飯や汁物などはなるべく本人によそってもらうなどしている	昼食の食事の前に、ラジオ体操や口腔体操を行い、食事がおいしく食べれるような取り組みをしている。ご飯など本人によそってもらい、出来ることを増やす取り組みをしている。利用者の家族にも味見をしてもらい意見を求めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本となる献立は母体施設の栄養士がたてる為、ある程度のバランスは整っていると思われる。食事水分量の摂取量はチェック表で把握しており、必要に応じて支援が出来ていると思う 好みの飲み物を飲めるようにもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。一人ひとりの持っている力に合わせた支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し一人ひとりのパターンに合わせて声をかけたり誘導を行ったりしている。把握したパターンをもとにパッドの使用の有無や形状なども随時必要に応じて変更の検討もしている	日中・夜間共にトイレに付き添い排泄を促している。トイレ誘導もさりげなく声をかけている。利用者それぞれに合ったパットを使用し、工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、乳酸菌飲料を飲んだり、運動をうながしたりしながら予防に努めているが、把握し切れていなかったり、薬に頼らざるを得ない入居者もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂、夕方など本人の希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。ただし、希望がない(把握しきれていない)入居者の場合は職員の都合に合わせているかもしれない	本人の希望に出来るだけ応じ、夜間の入浴も対応している。下肢の血栓予防の為、毎日足浴をしている利用者もあり、その方に応じた対応がなされている。失禁や尿臭があった場合は、その都度、陰部洗浄を行うよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お気に入りの椅子で休めるようにしたり、和室で過ごしたり、希望に応じた場所で休めるような支援をおこなっている。また、寝る時間、それまでの過ごし方も本人に合わせて時間の強制などは行っていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者に処方されている薬の情報は薬表によって周知している。目的などは分かっているが副作用についての理解は十分とは言えない。臨時の薬が処方された時などは特に症状の変化には気を付けるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、料理、生け花、畑仕事など活動できる場の提供を意識しているが、全員には出来ていない部分がある。晩酌や読書の時間など、それまでの生活歴に応じ楽しみの時間も確保できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎回の希望にはそえていないが、外出の支援は行っている。年に3回程度は全体での外出行事なども計画して実施しているが、頻度が少ないと思う	事業所の駐車場内での散歩は天気が良い時には出来るだけ行えている。サロンへの参加や野菜作りの為の材料の買い物、地域住民とのドライブなど外出する機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理しているお金もあるが、金庫内に預かっている預り金を必要に応じて、本人が使えるような支援を行っている ただし、買い物などお金を使う場面の提供が不十分と考える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時には電話をかけてもらう事はしている。又年賀状は毎年書いてもらい家族へ出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室では冬にこたつなども用意し過ごし易い環境を用意している。季節を感じられるような飾りつけなども行っているが、空調や調光については一人ひとりの好みには応えられていないかもしれない	中庭があり、口の字型に廊下や食堂が配置されている。晴れや雨などの天気も感じられるような工夫がなされ、和室にはこたつがあり、訪問時も利用者がこたつで転寝をしていた。トイレや風呂場も清潔に保たれ、掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに気に入っている場所があり、少ないながらも選択肢の多様性があるのではないかと考える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の使い慣れた物があったり、それぞれの好みに合わせた環境になっていると思う。転倒への危険回避のために家具の配置など、本人や家族に相談しながら変えるなどの工夫も行っている	使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれている。部屋の壁には、家族の写真が貼られており、利用者それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫されてる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりなど安全には配慮がある程度できているが、自動の水栓や照明など「わかりやすさ」の部分では混乱を誘発してしまうような箇所もあると思われる		